

ストレングスアセスメントを 学校現場に生かす

第7回城南ティーンこころのメンテ研究会

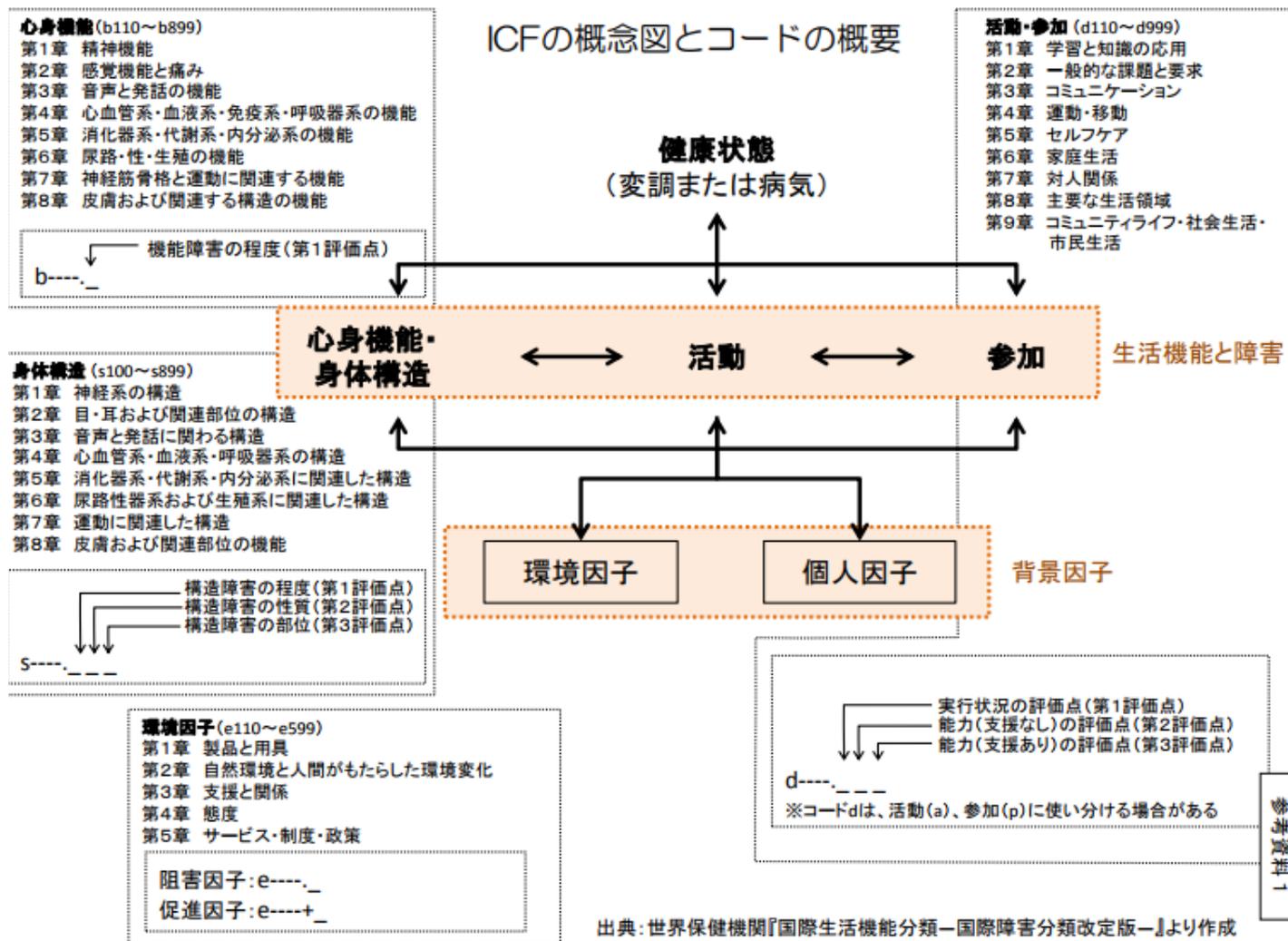
東邦大学医学部精神神経医学講座

助教 船渡川智之

ストレングスとは

- 日本語では「強み」:利用者本人にも、利用者の環境にも存在するとされている
 - 利用者本人のストレングス:本人の有する能力、意欲、自尊心、嗜好、資産
 - 利用者の環境のストレングス:家庭や近隣、地域の団体の役員、ボランティアの存在など
- 現在考えられている様々な援助の理念や方法とも関係
 - 2001年5月世界保健機関(WHO)の総会において、国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)の考え方に変更

ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health)



ストレスを理解に役立つキーワード

- 抑圧—欠陥—問題（個人・環境）
 - レッテル貼り
 - 閉ざされた生活の場
- ソーシャルワーク
- 問題解決モデル
 - 「問題」を定義することへの「問題」
- リカバリー

ソーシャルワークのはじまり

- ソーシャルワークの起源は「道德の欠如」という概念
 - 歴史上、文化の中心を占めてきたのは、部外者を特定して征服し、人々の心の中にある「敵」と戦うこと
 - 貧困は、飲酒、不摂生、無学、道德的意志の欠如によるもの (Axinn&Levin, 1975)
 - 変化をもたらすもの：説得や親切的な感化によるもの > 金銭的支援
 - 問題の根源に人々の弱点があることで概念の筋道が形成
 - 20世紀に入り、ソーシャルワーカーが人々を支援する仕事としてより専門性の高いアプローチを求められ始めた

(Leiby, 1978)

問題解決モデル

- ソーシャルワークの焦点「問題解決法を用いて、人と環境の相互作用のなかで問題を解決することに集中すること」 (Compton&Galaway, 1984)
 - 「人の問題を評価し、適切な資源を設定し、発展させ、役立たせる」ことが重要 (Hepworth & Larsen, 1986)
- 「介入」の概念と密接な結びつき
 - 焦点は「個人と社会との間の関係作りにおける障害」
(Shulman, 1979)
 - 問題についての正確な診断またはアセスメントをすることで、個人的ないし社会的困難の自然経過を中断させること
 - 困難または問題が、アセスメントと行動の要

問題解決モデルの「問題」

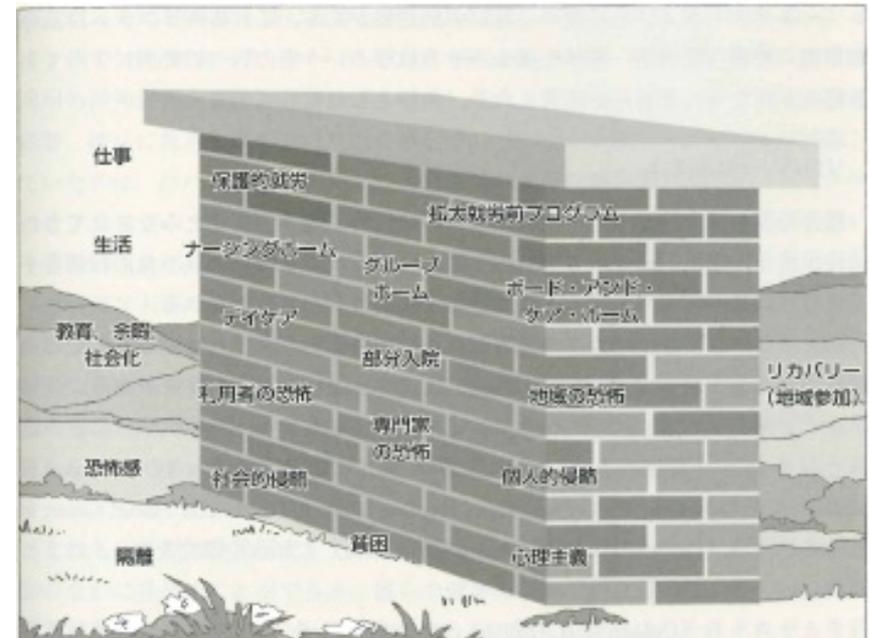
- 「問題」を定義する方法は異なるが、「問題」を有するために支援を必要としているという信念が、すべての流派の治療観に共通
- 「問題の存在」が、専門的支援者が存在する理論的根拠
- 問題の正確な原因を解明しようと関心を払うと、問題をこれらの専門用語で扱うことの方策にはまる

「抑圧」の産出

- 抑圧:「権力や権威を乱用し、または乱用するかのようにして押しつぶし、苦しめ、感情を踏みにじること」
- 個人と環境への欠陥志向、レッテル貼り、犠牲者非難は精神障害者達の抑圧を産み出す社会的過程の一つ
 - その人の居場所、時間、活力、移動性、絆、主体性を侵害 (Bulhan, 1985)
 - 居場所の没収: プライバシーや居場所を自分の思い通りにすることは、地域ケアの中心がデイケア活動となっている状況では不可能
 - 時間の没収: 「治療構造」として、その人の時間の使い方を指示するような治療計画やサービスが作成される
 - 移動手段の没収: 車の所有が認められず、公共輸送機関や精神保健ワーカーの輸送に頼ることになる
 - 絆(人間関係)の没収: 大半の時間を他のクライアント、スタッフと一緒に過ごすため、社会的な世界は制限される
- 被抑圧者が最初に学習することは「自分の居場所にとどまること」
(Fanon, 1968)

「抑圧」の5つの要因：

- ① 心理主義
- ② 貧困
- ③ 恐怖感
- ④ 専門家による実践
- ⑤ 精神保健サービスシステムの構造



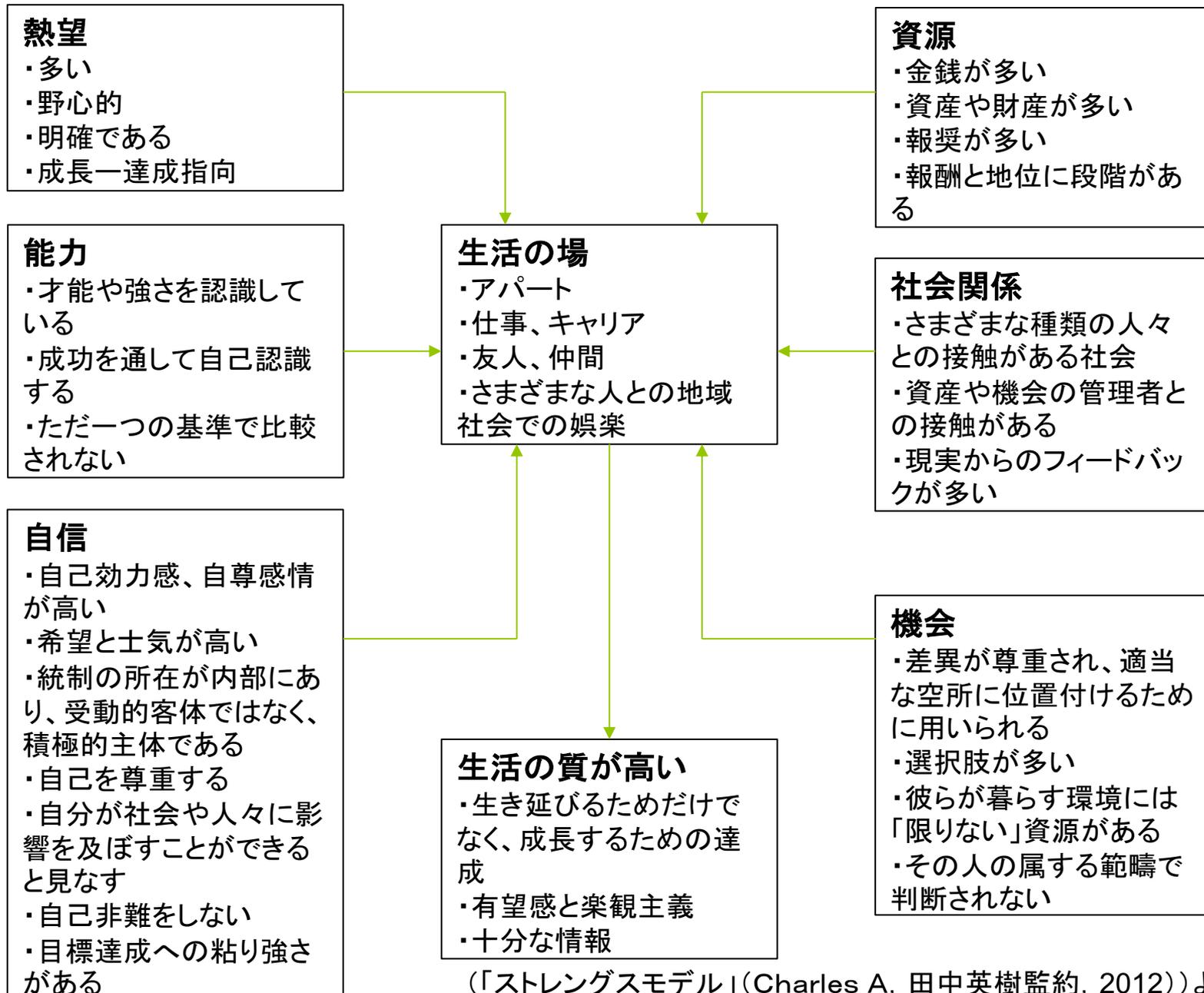
（「ストレングスモデル」(Charles A, 田中英樹監約, 2012))より一部抜粋

リカバリーにおいて重要な5つの要素

- ① 自我を回復させ、よみがえらせること
 - ・ 症状の体験や診断のレッテル貼りを超えて、人として自分を定義する
- ② 個人的な「統制」の必要性
 - ・ その人が選択可能なものから選ぶ自由があるという信念を取り戻すこと
- ③ 目的意識
 - ・ 生きる理由を見つけることで、不可能な状況でも生き抜くことができる
- ④ 早い段階で達成感を得ること、および責任ある役割を担うこと
 - ・ 「私は落伍者」→「学校に通い、友人に愛、仕事を楽しんでいる」
 - ・ 仕事や職業訓練、趣味や芸術などへの参加
- ⑤ 一人の人間(支援者)の存在 「人間関係」
 - ・ レジリエンスの「関係性」に相当

ストレングスの基礎理論

- ストレングスモデルの考え方: すべての人は目標や才能や自信を有しており、また全ての環境には、資源や人材や機会が内在している
- 普段の認識を再考する: 制限されていること(控え目で機能していない、障害や病理学に囚われすぎる傾向がある)を意識
 - 問題より可能性を
 - 強制ではなく選択を
 - 病気よりむしろ健康を
- 暗黙の了解という束縛(=「抑圧」)を脱する



ストレングス理論 まとめ

- スtrenグス理論は、人の生活の質や達成、生活に対する満足度の大部分は、その人が住む生活の場のタイプと質に帰せられると仮定
- 生活の場は、人の主な生活様式(居住環境、仕事、教育、娯楽、社会的関係など)に近似
- ふさわしい場所の質は、その人の願望、能力、自信、環境の資源(人が利用できる機会や人々)の機能によって決定される

ストレングスアセスメント

問題志向アセスメントの批判

- 問題志向アセスメントの目的: 介入の方針と手段を設定する際に必要な情報収集を行うこと
- 問題あるいは欠陥モデルがクライアントを没個性かし、動機づけの低下を招くモデルとして批判
- 環境に関連する内容の不足
 - 家族に対していくらかの注意が払われるかもしれないが、再度、家族の問題や葛藤を反映するにすぎない

アセスメントの比較

ストレングス志向のアセスメント	問題志向のアセスメント
人が望み、欲し、希望し、願望し、夢見るもの、人の才能、技能、知識。全体的な描写。	問題として診断を下す。
利用者が置かれている状況の観点から情報を収集する。	問題と関連して質問が続けられる。ニーズ、欠陥、症状。
民族誌的、質的。	問題志向のアセスメントは、専門家の視点から見たクライアントの問題の原因を追究する。分析的。
会話と目的に富む。	疑問文の面接である。
「今ここで」に焦点が当てられる。将来/過去についても話し合う。これまでどのようにしのできたかを問う。	機能水準を確認するための診断評価の手順に焦点が当てられる。
人々は個人と環境のなかで自分の望むものを決定する、かけがえのない人間としてみなされる。	クライアントは行動に関して洞察を欠き、問題や病理については否認しているとみなされる。
アセスメントは関係性が基盤にあり、現在進行形で、決して完全なものではない。	クライアントは直接決定を導くサービス供給者のために、無抵抗で受動的になっている。
励まし、助言、承認は過程において不可欠である。	汎用の均質な言葉を使いながら、診断または問題の分類の対象として人を診る。
ストレングスアセスメントは特有で詳細なものである。人を個別化する。	公式のサービスによる問題とニーズの遵守と管理を強調する。
利用者が権威と所有意識を持つ。	専門家によってコントロールされる。
専門家は「私はあなたから何を学ぶことができますか」と尋ねる	専門家は「あなたが学ぶべきことは/取り組むべきことは・・・」と指示する。

ストレスングスアセスメント

- クライエントのリカバリー、改善、生活の変革を支援する際のツールとして
 - うまく使えばクライエントを全体性の観点から描き出すことができる
- 2つの基盤となる疑問：
 - 1) クライエントが達成したいことが何かを知らずして、問題が何かをどうやって知るのか。
 - 交通手段がないことは、欲しい者を得ようとするクライエントにとって障壁になるときに問題となるにすぎない。
 - 2) クライエントが何かを達成する際に助けとなる資源や支援は何かを知らずして、問題が何かをどうやって知るのか。
 - 交通手段がないことは、ただクライエントが行く必要がある場所に着く実行可能な選択肢が他にないときに問題になるに過ぎない。

ストレングスとは何か

- Q: その人のストレングス(長所・強み)とは何か？
- A: その人が「よく働く」「親切」「思慮深い」「面白い」「誠実」「思いやりがある」「知的」
 - 人の性質や性格は、ストレングスの一部にすぎない。

4つのストレングスタイプ

① 性質/性格

② 技能/才能

③ 環境のストレングス

④ 関心/熱望

個人の性格

- 個人の性質は、いかに自分自身を認識していようが、あるいは他の人が自分たちをいかに認識していようが、自分が何者かを定義してしまう特徴がある
- 失敗、消極的な態度、あきらめとして人生が描かれる時は、自分のもっている積極的な性質を見逃す可能性がある
- 周囲にいる人々から消極的なメッセージが強調されるとき、それを内面化し始める
 - 人生の困難に圧倒されながらも、自分の子どもたちを必死で育てている女性は、彼女が何とかやりくりしてきたその勇敢な道のりに自分でも気づかないかもしれない
 - 「とても素敵な人」「ユーモアのセンスをもっています」というだけでは曖昧なコメント
 - 「彼女は一身を捧げてきた母親だ」と言われることは、大切な何かにふれるかもしれない その人が心の中で望んでいることを他の人から認められる

才能/技能

- 人の性質と性格だけではその人を表すのに十分でなく、その人が持つ能力が基盤になる
 - 才能と技能の例: ギターを弾くのが上手、壁の施工法を知っている、上手なチリソースを作ることができる、芝生の刈り方を知っている、すばらしい写真を撮ることができる、ユーモアのある小説や詩を書く特技がある、効率良く食料品を買うことができる、など。
- 人の才能や技能、特に自分自身のそれを明らかにするのは難しい
- 才能や技能の特定は、リカバリーの一つの手段

環境のストレングス

- その人自身の外部にあるものを示し、その人の目標を達成するのに役立つ資源である
 - 人的なサポートシステム(家族、友人、ペットなど)、車、支持的な振興団体、仕事、安心感を得られる場所、教育制度、その人の所有物など
- アクセスできる環境の資源は何かを知るだけではなく、その人のストレングスとして、それがどのように使われていたのかを知ることも重要

関心と熱望

- 目標達成に役立つ最も重要なものの一つ
 - 関心のある目標を追求しようとするだけでなく、より熱中できる目標を追い求めたり、目標に到達する過程からより高い満足感を得ようとしたりする傾向がある (Deci&Ryan, 2000; Sheldon&Kasser, 1998)
- 本来備わっている動機づけは、リカバリーの旅を通して、その人の動機づけを支えるストレングスとなる可能性がある
- うまくできることを楽しめない場合もあれば、上手とは言えないことに関心がある場合がある
 - 家具のとりつけが得意だったとしても、退屈であきあきする仕事だと思っている場合がある。技能をもっている、その人が技能を活かそうとしないければストレングスにはならない
 - 花や苗にとっても関心がある人が、そのことについて何も知らない場合がある

ストレングスの一覧

性質・個人の性格	技能・才能	環境のストレングス	関心・熱望
正直である	トランプが得意	本当に気に入っている 安全な家がある	ロックスターになりたい
思いやりがある	数学とお金の管理が得意	兄がいる	魚釣りが好き
希望を持っている	車の修理ができる	飼い犬が親友	テレビで昔の映画を観るのが好き
勤勉である	石壁を積むことができる	毎月5万円の不動産収入がある	コーヒーショップでくつろぐのが好き
辛抱強い	フラワーアレンジメント	2年前まで、地域の宗教コミュニティの一員だった	姪と一緒にもっと時間を過ごしたい
感性が豊か	野球カードをすべて知っている		近い将来自分の車を持ちたい
話好き	コンピューターの天才	銭湯が近くにある	
親しみやすい	古い洋楽をよく知ってる		
進んで人助けをする			
弱者をかばう			
記憶力がすごい			

ストレングスアセスメントの用途

- クライエントを知るための関係づくりのツール
- 援助関係を開始するための文脈を確立するツール
- クライエントのリカバリーの旅を思い描き、共有するのに役立つツール
- クライエント一人ひとりに合わせた目標達成の戦略を確立するためのツール
- クライエントの健康的な側面を詳述するためのツール
- 時間を経てクライエントの達成を祝うためのツール
- その人の人生における日常的なことに光をあてるためのツールであり、クライエントのリカバリーに役立つ「パーソナル・メデーション」の協力的な源となる (Deegan, 2007)

ストレングスアセスメント 内容

- 我々がもつ数多くのストレングスを体系づけたり、利用したりするツール
 - その人を知るためのすべての情報を保持できるような記憶力を我々は持っていない
- ストレングスアセスメントツールは、7つの生活領域（「家/日常生活」「財産・経済/保険」「就労/教育/専門知識」「支援者との関係性」「快適な状態/健康」「レジャー/余暇」「スピリチュアリティ/文化」と3つの時間的配列（「過去」「現在」「未来」）に体系付けられる

のストレングスアセスメント

現在のストレングス 私の今のストレングスは？ 才能、技能、 個人の、環境のストレングス	願望・熱望 何がしたいか？ 何が欲しいか？	過去の資源 個人、社会、環境 どんなストレングスを今まで使っ てきたか
家/日常生活		
財産・経済/保険		
就労/教育/専門知識		
支援者との関係性		
快適な状態/健康		
レジャー/余暇		
スピリチュアリティ/文化		

優先順位

- | | |
|----|----|
| 1. | 3. |
| 2. | 4. |

私について追加コメント・重要事項

これは私のこれまでの人生で特定されたストレングスの正確な姿です。私たちは、私のリカバリーの旅において、私にとって一番重要な目標達成の助けとなるよう、時間をかけてストレングスを追加し続けていきます。

私のサイン

日付

私は、人生において重要で意義ある目標の達成のために、この方が特定されたストレングスを使うことを支援することに同意します。この方のリカバリーの旅に何が重要なのかをさらに学びながら、この方がストレングスを追加していくことを支援し続けるでしょう。

支援者のサイン

日付

ストレングスアセスメント 内容(生活領域)

• 家/日常生活

- クライアントが現在住んでいる場所だけでなく、住んでいるところがどのようなものであるかも含む。
- 何がこの場所をクライアントの「家」にしているのか
 - 家具、壁にある絵、多くの窓、バルコニー、水槽など
- クライアントが利用できる環境の資源には何があるのか
 - バスの路線、コインランドリーなど
- 日常生活における技能には何があるか
 - 毎日「すること」のリストの維持、料理、食料品店クーポンの利用など
- クライアントの理想的な生活状況はどのようなものか？

ストレングスアセスメント 内容(生活領域)

- 財産・経済/保健
 - クライエントの収入の確保方法、保険の有無
 - 財産に関して何を重視しているか(貯蓄が重要である、いつか休暇旅行に行けるようなお金が欲しい、お金について決定権が欲しい)?
 - クライエントは過去にどのような方法でお金を稼いでいたか?
 - クライエントは財政的に満足しているか?
- 就労/教育/専門知識
 - 雇用とその形態、公式・非公式な学習活動、専門的な訓練、資格など
 - 過去に就いていた仕事や現在就いている仕事
 - 復職や転職を望む場合は、それに役立つ仕事に関連するクライアントの技能を列挙
 - 古い車の修理についてよく知っている
 - 庭づくりについて広い知識がある

ストレングスアセスメント 内容(生活領域)

- 財産・経済/保健
 - クライエントの収入の確保方法、保険の有無
 - 財産に関して何を重視しているか(貯蓄が重要である、いつか休暇旅行に行けるようなお金が欲しい、お金について決定権が欲しい)?
 - クライエントは過去にどのような方法でお金を稼いでいたか?
 - クライエントは財政的に満足しているか?
- 就労/教育/専門知識
 - 雇用とその形態、公式・非公式な学習活動、専門的な訓練、資格など
 - 過去に就いていた仕事や現在就いている仕事
 - 復職や転職を望む場合は、それに役立つ仕事に関連するクライエントの技能を列挙
 - 古い車の修理についてよく知っている
 - 庭づくりについて広い知識がある

ストレングスアセスメント 内容(生活領域)

- 支援者との関係性
 - 支援者が誰か(家族、友人、同僚、近隣、ペットなど)
 - 関係性も記載(困っている時に、友人Aがいつも話を聞いてくれる。犬と一緒にベッドで眠る時が一番安心できる。母親は毎日仕事の送り迎えをしてくれるなど)
- 快適な状態/健康
 - 精神状態と身体状態の様相(例えば、血圧管理をしている、3年前から禁煙している、彼女が出会った人々について、それぞれ特徴の詳細を思い出すことができる)
 - 独自の健康に関する戦略、クライアント自身が健康増進にしようしているもの(リラックスするために、毎タウォーキングする、ヨガについて知っている、禁煙にはニコチンパッチが役立つことがわかった、精神を集中するためクロスワードパズルをするなど)
 - 健康上の困難さ、課題を埋め合わせるために使用する

ストレングスアセスメント 内容(生活領域)

• レジャー/余暇

- 好きな娯楽(ミステリー小説を読む、週に一度映画を観る、教会のソフトボールリーグに参加するなど)
- クライアントが楽しみにしていることは、その人の生活における他の多くの領域にも貢献する(趣味は友人関係を広げる機会になり、将来の就労や学問上の興味、あるいは健康増進のための戦略の基礎として役立つ可能性がある)

• スピリチュアリティ/文化

- リカバリーの旅に関連するスピリチュアリティと文化の要因を一貫して強調
- 組織的な宗派を超えて拡張して使用し、その人の人生に意義や目的をもたらすものを探索する
- 文化にはアイデンティティを形成し安らぎを与えてくれる一連の慣行や儀式、言語、物語、価値、信条などが含まれる

ストレングスアセスメント 内容(生活領域) まとめ

- 生活領域は、人々に最もかかわりのある生活領域に対応
 - 人々が生活している主要な生活の場も反映している
- 焦点はその人の健康的な側面と採用されてきた資源を反映している実際の生活活動
 - 個人的、環境的、現在や過去の資源も含めた
- 人の才能、願望、自信、その人の環境からの機会、資源、社会関係を反映する情報を求めるようにする必要
- 個々の人々の行動は、その人自身の歴史、現在の社会関係、そして成し遂げたいと思うビジョンの集合体によって影響を受けている (Kisthardt&Rapp, 1992)

ストレングスアセスメント 内容(時間的配列)

- 現在のストレングス
 - 個人の能力と生活状況で使用した環境の資源を含む
 - クライアントが何度も努力していることを明らかにすることは、願望の支援の際にワーカーがクライアントの生活において、どの動機付けが重要なのかを理解するのに役立つ(Moor-Kirkland, 1981)
- 希望や願望、熱望(未来)
 - その人が欲しいものは何なのか？
 - クライアントの人生に意義や目的をもたらすものは何なのか？
 - 主体性の積極的な感覚をもたらすものは何なのか？
- 過去にどのようなストレングスを使っていたか
 - 能力には環境とかかわりながら積み重ねられた歴史があり、生産的であったか、地域生活がうまくいっていた時期があるため、ワーカーとクライアントが将来の見込みにおいて、人為的な限界をつくるのを避けるのに役立つ
 - 過去の出来事が目標への指針を示すかもしれないし、再建したいと思う資源や関係を示すかもしれない

ストレングスアセスメント 内容

- 優先順位
 - クライアントにとっての優先順位を明らかにするための欄
 - クライアントがその時に考えた優先順位でも良い
 - 時間を経て変化するもの
- ワーカーあるいはクライアントがリカバリーに関連するストレングスアセスメントに加えて書き留めたい情報を記録する欄
 - クライアントの個人的な資質を記述するためにワーカーが使用することも可能
 - 「〇〇は生活で直面している多くの課題にもかかわらず、仕事を見つけようと努力している。彼や彼の息子のためによりよい生活を送ることは、彼の人生において最も重要なことである」
- クライアントとワーカーと一緒に書くサイン欄
 - 共同作業の結果であること、共有された情報を確実に反映することを象徴的に示すもの
 - 契約書ではない

アセスメント内容の重要な構成要素

- ① スtrenグスアセスメントの内容はクライアントにとって意義ある重要な文脈のなかで集めるべきである
- ② スtrenグスアセスメントの内容は、クライアントのやる気を引き出すものであるべきである
- ③ スtrenグスアセスメントは、詳細にわたり、独自性のあるものである
- ④ スtrenグスアセスメントで使われる言葉は、クライアントの視点から、クライアント自身の言葉を使って書かれるべき

① ストレングスアセスメントの内容はクライアントにとって意義ある重要な文脈のなかで集めるべきである

- 1つの過ち：インタビューツールとしてストレングスアセスメントを使おうとすること
 - その時のクライアントに関連する文脈や、クライアントの生活にとって意義ある重要なものを欠いた「事実探し」になること
 - 現在の「状態」についての表面的な情報となる可能性
 - 「住んでいる」「生活保護受給」「テレビを視るのが好き」「薬を飲む」「支援は母、兄、治療者、ケースマネジャー」などの内容が、ストレングスアセスメント全体にばらばらに散らばることになる
- よくできたストレングスアセスメント
 - クライアントが意義ある人生の目標を達成するのに役立つ
 - これらの目標を達成する際の障壁や課題を乗り越えるのに役立つ

① ストレングスアセスメントの内容はクライアントにとって意義ある重要な文脈のなかで集めるべきである

- 協働作業としてクライアントを誘う会話を発生させる導入の文脈が必要
 - クライアントが住居探しを望んで援助関係に入ってきた場合
 - 「住む場所を見つけることがあなたにとって重要ということならば、私たちがみなさんの目標を達成するために役立つために使うツールをお見せしたいのです。それは、住居に関してあなたが重視していることを理解するのに役立つし、あなたが言えをうまく見つけることができる鍵となるストレングスを私たちが特定するのに役立つでしょう」
 - クライアントの好みや整理された資源、鍵となる支援だけでなく、過去の住居の経験に関する記録や住まいを見つけるのに役立ったことで満たされるようになる
 - アセスメントのツールを使うことの妥当性や信頼が確立され、最初の焦点から他の領域に広げることができる

② ストレングスアセスメントの内容は、クライアントのやる気を引き出すものであるべきである

- クライアントの人生の健康的な側面を記録する場であるべきである。
 - ストレングスアセスメントは、めったに精神保健の専門家によって収集されない情報を収集する機会を提供
- クライアントの人生経験における健康的な面には、それには希望や夢、うまくいっていること、過去にうまくいっていたことが含まれる
- よくできたストレングスアセスメントは、環境・個人双方のより正確な社会資源の一覧を反映する。クライアント個人が変化や望まれる生活状況に影響を与えるために自由に使うことができる
 - 「無職」「ホームレス」「毎日の飲酒」「保護観察中」などの情報をストレングスアセスメントに記録することは、クライアントが生活上の目標達成に失敗したことを視覚的に思い出させるものでしかない
- やる気を失わせるということ以上に、クライアントが生活で臨むことを実現する支援のために必要な、ストレングスアセスメントの価値ある空欄を行き止まりにする
- 希望の感覚と可能性を伝えるものとなる

③ ストレングスアセスメントは、詳細にわたり、独自性のあるものである

- 個々人のリカバリーの旅が独自なものであることを考えると、個々人の独自性を明らかにすべき
 - 「〇〇は音楽が好き」「自分のアパートをもっている」「過去に働いていた」→「〇〇は、かつて結婚式でギターを弾いてお金を稼いでいた」
- よいストレングスアセスメントモデルの実践者は、アセスメントをともに行なっている人について、もっとよく知ろうという好奇心を持ち続けている
- ワーカーがその人を知るにつれて、その人にとって重要なこと(重要であり続けること)についてさらに熱心に耳を傾けるはずであり、より情報の詳細を得るように努めるべきである
- 目的はその人のリカバリーの旅に使える情報を見つけること
- ワーカーは常に、可能な限り最も「使える形式」でストレングスを記録するように努力すべき
 - 「幻聴が聞こえる」→声に対して役立つものは何かないか→「薬(セロクエル)が助けになる」→「セロクエルは夜に幻聴が聞こえて眠れない時の助けになる」と記載

④ ストレングスアセスメントで使われる言葉は、クライアントの視点から、クライアント自身の言葉を使って書かれるべき

- 会話のなかでうちあげたことを臨床的な言葉に書き換えることは、誰にとってもやる気を失わせる
 - 「ガールフレンドが欲しい」→「社会性の増大」
 - 「より明確にものごとを考えられるようになる」→「精神症状の安定と管理」
- 言った言葉だけでなく、その言葉に込められた意味も記録内容に含めるように
 - これまで長年の間行なってきたいくつもの仕事について話すクライアントが、それぞれについてやってきたこと、好きなところ、嫌いなところについて強調して話すかもしれない
- その人が用いた言葉をそのまま引用することは、私たちがクライアントから聞いたことを示すのによい方法であり、その人のリカバリーへの私たちのかかわりを正当化しようとするのに有効な方法である
- 定期的にストレングスアセスメントを振り返った時、この目標と関係のある言葉を見つけられるかもしれない

ストレングスアセスメント

- サービスの利用において必要とされる資金の正当な理由になることを意図されるものではない
- 人生に対する願望を伝えることや、願望の実現に役立てられるストレングスを記録するためにデザインされたツール
- クライアント個人のワークシート
- クライアントがそれに価値を見出すのは、ワークシートにクライアント自身が、あるいはクライアントが努力してなろうとしている人物が反映されている場合のみ

内容についての留意点

- 個々の情報を記入するのに記入欄をまたがってもかまわない
 - 友人に関する情報をストレングスアセスメントで共有している場合
 - Aはクライアントの親友と思われており、クライアントはAと一緒にバスケットボールをするのがいかに楽しいか話す時、ワーカーはこの情報を「支援者との関係性」でも「レジャー/余暇」の活動に書いても構わない
- クライアントが特にストレングスアセスメントに書くことを望まないことがあるならば、書いてはならない
 - ワーカーがクライアントの兄弟をストレングスとして捉えていても、クライアント自身がそのように捉えていなければ、今のところアセスメントに書くのは見送る
- 「ストレングス」という特別な言葉について、クライアントと議論しない
 - クライアントが、ワーカーが用いたい言葉ではない何かをストレングスアセスメントに選ぶと望んでいるならば、クライアントの言葉を引用で記入
 - クライアントが今いる地点に合わせることで、さらに内容を探求する際に最良の方法

実施過程の重要な構成要素

1. ストレングスアセスメントの過程は、クライアントのペースで展開されるべき
2. ストレングスアセスメントは会話形式で行われるべき
3. ストレングスアセスメントは可能な限り地域のなかで行うべき
4. ストレングスアセスメントは継続した過程の一部であり、その情報は基本となる情報の上に更新されていくものである

ストレングスアセスメントを促進する質問

1. 質問を始めるよりも招待するようなかたちでストレングスアセスメントを紹介すること
2. 開かれた質問をすること
3. 意見と同様に行動を反映する質問を使うこと
4. 報告されたことの詳細と理解が十分に得られるまで探索する
5. クライアントが連れていく場所に行く
6. 照らし返し、自己開示をする
7. 共感と、感情に耳を傾けていることを示す
8. クライアントが自分の健康的な部分を見るように援助する

症例:42歳 男性A氏 統合失調症

- 2年間B州で生活。最初の5ヶ月間はホームレスの保護施設か街頭で過ごしていた。
- 現在、A氏は3人のルームメイトと自立生活支援施設に住んでいるがあまり交流がない。
- ルームメイトに食べ物を盗んだと非難され、けんかになった。
- Aは8年間住んでいたグループホームのあるC州に再度やってきた。
- 叔父のところに行くという理由で、グループホームを退所したが、叔父が住んでいるという記録はなかった。
- バスの停留所で眠っているところを警察により保護され、施設に移送された

症例:42歳 男性A 統合失調症

- 現病歴:
 - 17歳で発病
 - クライアントが母親を脅かすようになったので、母親は彼を入院させた
 - クライアントはC州立病院で14年間過ごした
 - 1990年に退院し、グループホームに入居したが、その後8年の間に、10回入退院を繰り返した
- 職歴/教育歴
 - 公立中学校の3年時まで登校在籍したが、両親により退学させられた
 - ほとんど読み書きができない
 - 職業歴はあまりなく、唯一C州立病院で従業員室の管理人をしていたことがある

症例:42歳 男性A 統合失調症

- 社会生活歴:
 - 父親は彼が12歳時に、母親は彼が33歳時に死亡
 - C州では社会的支援のネットワークがなかった
 - 友人作りも難しく未婚
- 財政:
 - 生活保護月8万円程受給
 - C州の精神保健部がその受取人
 - 金銭管理がうまくできない

症例:42歳 男性A 統合失調症

- スタッフ会議後、ワーカーがA氏とストレングスアセスメントを始めることとした
- デイケアで1日を過ごすかわりに、靴を買うためにショッピングセンターに行くというプログラムを提案し、同意を得た
- ショッピングセンターで交わした会話を通してアセスメントを記入
- 買い物が終わった後、ワーカーとA氏はストレングスアセスメントに会話の内容を書き留めた

症例:42歳 男性A 統合失調症

- 2～3週間後、A氏はデイケアプログラムに参加する代わりに、ワーカーと仕事探しに出かけた
- A氏はついに、地元の映画館でチケット切りの仕事を得ることができ、A氏もこの仕事が気に入っていた
- その後17年間映画のチケット切りの仕事を継続

<p>現在のストレングス 私の今のストレングスは？ 才能、技能、 個人の、環境のストレングス</p>	<p>願望・熱望 何がしたいか？ 何が欲しいか？</p>	<p>過去の資源 個人、社会、環境 どんなストレングスを今まで使ってきたか</p>
家/日常生活		
<p>自立生活移行アパートに住んでいる:家賃が手頃で、バス路線の近くにある ホットドッグ、ピザトーストを作るのが好き</p>	<p>私は自分の場所が欲しい。メキシコ料理を学びたい。新しい靴が必要。</p>	<p>グループホームに住んでいた;シェルターや路上から締め出された</p>
財産・経済/保険		
<p>生活保護の収入 週に1万円を小遣いとして支払われる</p>	<p>自分のお金の使い道は自分で決める権利があった方がいい やりたいことをするためにもっとお金が欲しい</p>	<p>母は病気が重くなるまで受取人をし、支給額にお金を上乗せしてくれていた。</p>
就労/教育/専門知識		
<p>デイケアに通う。症状管理・金銭管理プログラムに参加している(役立たない)</p>	<p>仕事が欲しい、デイケアを卒業したい</p>	<p>近くの病院で床をふきバスルームを掃除していた。台所で皿も洗っていた。</p>
支援者との関係性		
<p>D氏:ルームメイト(ケーブルテレビを契約している。時々お金を出し合う)</p>	<p>結婚したくないわけじゃない。デイケアセンターに好きな彼女がいる。ここから出たら彼女をデートに誘いたい</p>	<p>母:いつも自分のために尽くしてくれる 叔父:一緒に魚釣りに行った。今どこにいるか知らない。</p>
快適な状態/健康		
<p>健康状態は良い、どこかへ行く時には基本的に歩く、薬は眠るのを助けてくれる、副作用はつらい</p>	<p>歯を診てもらう必要がある、抜歯が必要 薬物療法やめたい、副作用がつらい</p>	<p>子どもの頃は喘息だったが、寒いとき外で走ったりしなければ大丈夫になった</p>
レジャー/余暇		
<p>テレビを見るのが好き;昔のウェスタンの映画。テレビで映画をやっていたら何でも観る Dと私で映画をレンタルする。彼はコメディが好きだが、僕はアクションものが好き</p>	<p>自分の部屋にテレビが欲しい ビデオデッキが欲しい</p>	<p>よく魚釣りに行った 自分用の釣り箱や釣竿を持っていた 子どもの頃映画館によく行った、時々は母と、時々は友人と</p>
スピリチュアリティ/文化		
		<p>母と教会に行っていた。 教会にはたくさん人がいた</p>

優先順位

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 仕事が欲しい 2. 受取人になりたい | <ul style="list-style-type: none"> 3. デイケアから卒業したい 4. 自分自身の場所が欲しい |
|--|--|

私について追加コメント・重要事項

<p>これは私のこれまでの人生で特定されたストレングスの正確な姿です。私たちは、私のリカバリーの旅において、私にとって一番重要な目標達成の助けとなるよう、時間をかけてストレングスを追加し続けていきます。</p>	<p>私は、人生において重要で意義ある目標の達成のために、この方が特定されたストレングスを使うことを支援することに同意します。この方のリカバリーの旅に何が重要なのかをさらに学びながら、この方がストレングスを追加していくことを支援し続けるでしょう。</p>
---	---

<p>私のサイン A 日付</p>	<p>支援者のサイン E 日付</p>
---	---

学校現場でのストレングスアセスメント

- ストレングスアセスメントを学校現場で生かす状況として想定される状況
 - 不登校生徒の支援
 - 本人が支援を求めている状態(対人関係上・学習上)
- 実際に生活の場に行ってアセスメントをすることの限界
- 最大3年間の関わりという時間的制約
- 関わり方の要素は応用可能と考えられる

ご静聴ありがとうございました
